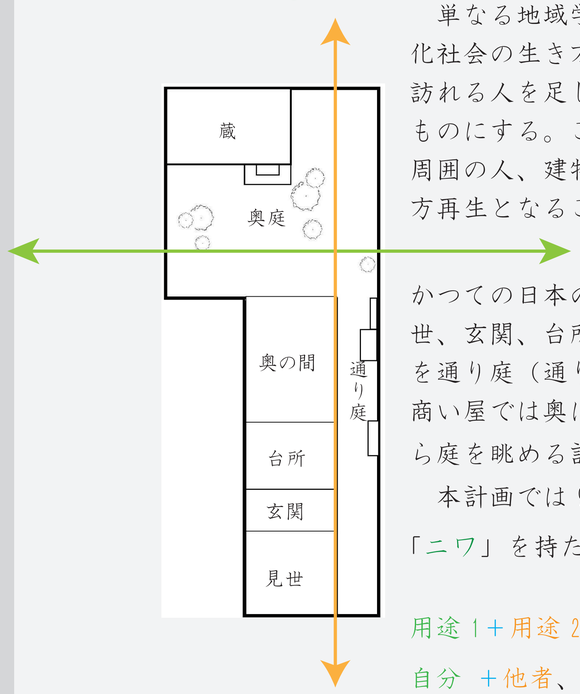
PLUS α

concept

diagram



波紋のように広がる社会情勢、人間関係、そして人口衰退。掛川には様々な文化や伝統、建築など独自の個性がある。そこで、新たに掛川学を学ぶ、あるいは「地域学」を学ぶ場として計画する。今回、城下町の再生として提案するのは「町が学校」だ。

単なる地域学だけでなく現代を生きる市民や進展していく高齢化社会の生き方も提示していく必要がある。暮らす人、働く人、訪れる人を足してつないで一体となり、新しい掛川の町を豊かなものにする。この建物から、この町から、この地域が原点となり周囲の人、建物と絡みあい、波紋のようにこの学びが広まり、地方再生となることを願う

かつての日本の町屋、商い屋建築では、商店街道路に面して、見世、玄関、台所、奥の間（住戸、客間）の順で長屋続き。その横を通り庭（通り土間）によって連絡する。
商い屋では奥に蔵が建てられ、通り庭によって接続し、奥の間から庭を眺める計画となっている。

本計画では９つの敷地に対して、下図のようなそれぞれ特有の「ニワ」を持たせる。町全体をキャンパスとすることや街歩きに

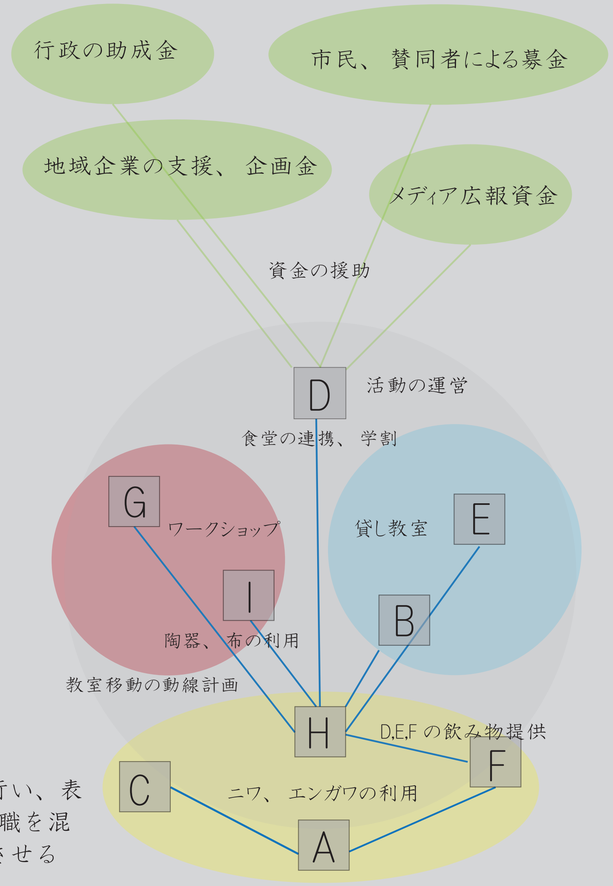
用途１＋用途２　と複合させることで新たなものを生み出していく

自分　＋他者、文化、道路…　　と複合し、知識や活動を広げる

敷地Ｄの持ち主は公益社団法人　大日本報徳社会員である。
今回、 掛川城下町の再生として「掛川を学ぶ場」をつくろうと提案
→NPO 法人の設立：敷地に事務所を構え、 プログラムの運営を行っていく。

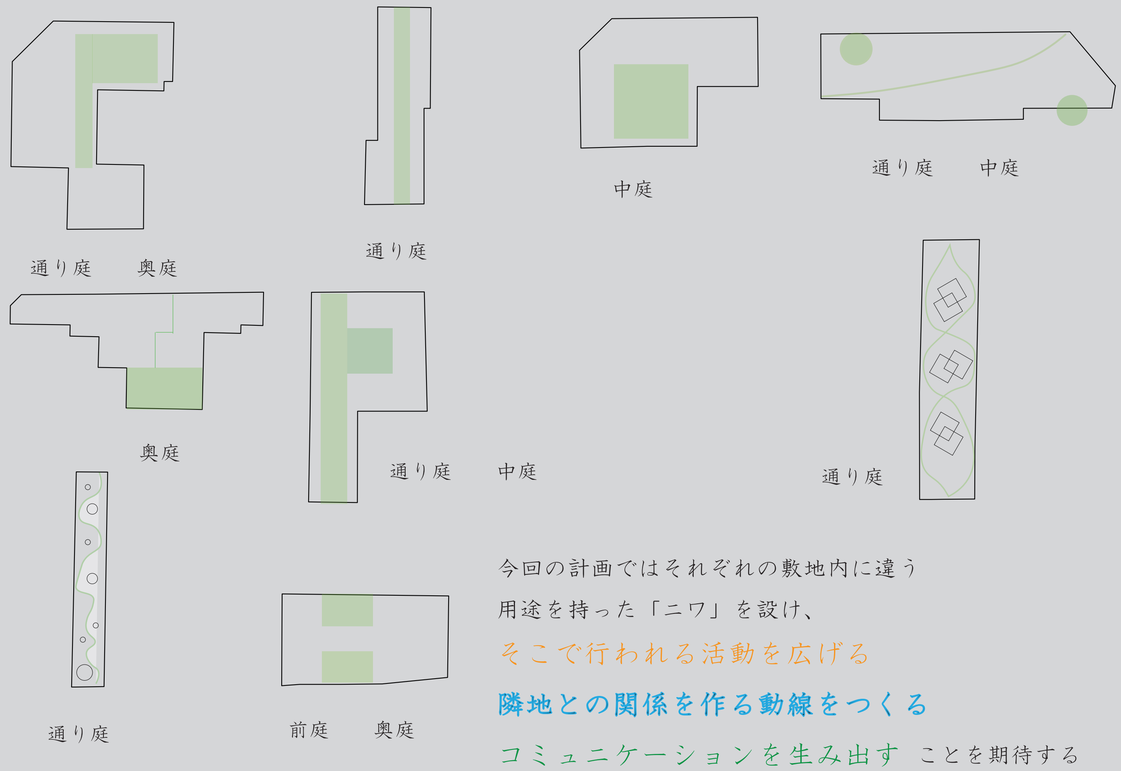
文化、 伝統、 環境、 食、 芸術、 科学など ジャンルにや場所を問わないで行う
計９つの計画によって新たな学びの原点となることを考える。
町全体をキャンパスとして構成し、 バラバラに点在するからこそ人の動きを生む
→町の中を人々が歩き出す。→新たな出会いが生まれる→暮らしも、 町も変わる

Ｂ：表　情報センター
　　裏　コワーキングスペース
Ａ，Ｃ：表　通り庭
　　裏　出会いの場
Ｉ：表　工房
　　裏　ワークショップ
森町の森山焼　中村陶房、晴山陶房
島田の志都呂焼き　利陶窯、天真窯
静岡の賤機焼　秋果陶房
Ｈ：表　食堂
　　裏　出会いの場
Ｅ：表　音楽ホール、カフェ
　　裏　貸し教室
Ｇ：表　工房
　　裏　ワークショップ
Ｄ：表　運営事務所
　　裏　貸し教室
Ｆ：表　通り庭、カフェ
　　裏　貸し教室



それぞれ異なった分野の生業を行い、表立っている職、＋αで行っている職を混ぜることで人々の街歩きを発展させる

敷地ごとに異なる庭の在り方



今回の計画ではそれぞれの敷地内に違う
用途を持った「ニワ」を設け、
そこで行われる活動を広げる
隣地との関係を作る動線をつくる
コミュニケーションを生み出す　ことを期待する